

六月二一日

朝院レクチャー。今日は太陽の光がまちに溢れている。午後尾島先生と建築学部構想で議論。建築学科は正念場だな。演習Gインターネットスタジオの開設を急ごう。中国行きが一日早まったので急ぎ明日夕方様々な打合わせをしなければならなかった。

六月二二日

十時住宅建築取材インタビュー。十四時大学院希望者面接。十七時世田谷村全体会議。夏の仕事について。それぞれのプロジェクト担当者のプレゼンテーションを聞く。ようやくそれぞれのスタッフ学生の意欲の構造が理解できたような気がする。どうやら女性の使い方を誤っていたようだ。女性の使い方は極めて方法的姿勢を貫徹しないとむづかしい。すぐに対処しよう。

久し振りに佐藤健から電話をもらう。第二段階の治療。これは放射線照射なのだが、それがうまくいったようだ。心が少し平安になったのだろうか。これから先何をやるのか考えるゆとりができたとも言っていた。位牌ができてきたそう。自業自得明王、俗名佐藤健、命名者上山杉浦石山於鳴砂山。大きさが五〇センチメートル程の立派なものらしい。ようやく、自分の位牌のことをしゃべれるようになるまで力が戻ったようだ。えらいなあ、健さん。俺なんかとても真似できないよ。本当に自分の中に強いモノを育てていないとここまで気力を回復する事はとても出来ない。

肝臓さえやられていなければ、持ち直せるのになあ。三〇日から秋田の温泉に行くって言った。又、寿司を喰える位になったって寿司までさいそくする位だから気力は明らかに回復している。凄いなと思う。健さんは今、凄い力を持ち始めているな。私は独人ではここまで気力を回復させる事はとても不可能だろう。多分女々しく自分で崩れていってしまうのではないか。

ゲートはようやくシリヤ、パレルモにナポリから到着した。

六月二三日 日曜日

午後、聖徳寺二代目住職兄弟檀家代表、中川さん友部栗畑トモコーポレーション社長我家に参集。聖徳寺プロジェクトの進め方について相談。顔を合わせて話し合う事の重要さを再確認した。

世田谷村スタッフのコミュニケーションの薄さが気になる。ケイタイ、メールは人間の何か最奥の尊厳を破壊しているように思うな。ケイタイ風コミュニケーションのうすさを世田谷村地下に持ち込んだ人間が確実にいるのだが。イヤな予感がする。

佐藤健と電話で話す。健さんは本当に立派な男になった。病気になる前のエネルギーで自由な時よりも、病気と対面して痛烈な絶望と対面していた時よりも、第二ハードルを乗り越えて、少しの平安を勝ち取った今の方が私にはまぶしく見える。電話の声だけでそれを感得することができる。私にも実ワ、大変な経験だった。この一ヶ月は。お蔭様で私も我ながら一皮ムケたような気がする。他人の病気で自分の下らない皮を一枚二枚とむいていくのは失礼な話ではあるが、私にはありがたい体験だった。